

明日にむかって

発行 社会福祉法人陽光会 編集「明日にむかって」編集委員会 発行日 2011年7月25日
住所 東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎03(3956)1068

65号

7月3日、陽光保育園恒例の夏のバザーが開催されました。日曜の朝早くから、陽光会の職員、陽光保育園の保護者も総出で売り場を担当します。かき氷、焼き鳥、お好み焼き、中華おこわ、生ビール、わたあめと食べ物も豊富です。卒園児が友だちを連れてたくさんやってきます。久しぶりに来た卒園（高校生）のS君、「保育園のころ、バザーは本当に楽しかったな。前日準備と当日の雰囲気。それから次の日も保育園に匂いの名残があって、なんか懐かしい」。狭い園舎に300人前後が出入りし、移動もままならないほどごった返します。係の人も大変です。しかしS君のように、バザーの匂いとともに、多くの大人が力を合わせてひとつのことに向かう姿が心地よい経験として残っていたことを、大変うれしく思いました。陽光保育園が定期的にバザーを行うようになって43年。毎回寄贈品を提供して下さる方は、わざわざ品物をとり置いて、暑いなか運んでくださいます。近隣の皆様のお力添えに深く感謝します。(H・T)



一時保育で初めて出会った子ども同士でも、お絵描き（写真左上＝ひまわり組の部屋で）や砂遊び（写真左下）をはじめ、いつものまにか仲良く遊んでいます。シャボン玉も楽しいね！

陽光保育園の ひまわり組（一時保育）へ ようこそ！

陽光保育園では、2006年の園舎全面改築を機に、国の子育て支援事業のひとつでもある「一時保育」を始めました。保護者の方の事情にあわせて、1歳以上の未就学児童を一時的に保育します。短時間の場合もあれば、1日保育の場合もあり、2～3日間、あるいは1週間連続、さらには年間を通して断続的に保育する場合もあります。定員は当初は1日3名、保育者1名という体制でしたが、希望者が増えたこともあり、現在は定員1日6名、保育者は2名です。専用の部屋が2階の3歳児クラスの隣にあり、「ひまわり組」と名付けられています。今回は、そのひまわり組担当者に、一時保育のご紹介です。

一時保育の利用理由は、保護者の仕事、通院、リフレッシュなどさまざま。子どもは毎日、顔ぶれが違います。1歳から5歳まで、その日によって違う顔ぶれだからこそ、保育者は出会ったお友だちとの関わりを大切にしています。

このようなか、ひまわり組の子どもたちも他のクラスの子のことを気にかけて見にいったり、遊びに入れてもらって楽しんでいきます。

「きょうはだれ？名前は何？」と顔をのぞかせ話しかけてくる3歳児、泣いている子がいると「なんで泣いているの？」と4歳児、散歩前に玄関で出会うと、「かわいー！」と小さい子の頭を撫でてくれる5歳児、「おはよう」と部屋まで言いに来てくれる2歳児、言葉は発しなくても部屋をのぞき込む1歳児の子もいます。

日中はよく他のクラスと一緒に散歩に出かけています。とはいっても、最初のうちはやはり個々に遊んでいます。少しずつ周囲の子を気にかけて、自ら関わりをもつて「電車ごっこ」や「お店屋さんごっこ」に加わったり、大人の誘いかけで一緒に「追いかけて」や「かくれんぼ」をしたり、石や葉っぱを使って「どうぞ」とおまじごとをして遊んでいます。

先日、あひる組（2歳児）がみんなの手をつなぎ、「海だー海だー」ひーいろいろな〜や「ぐるぐるまわれ〜」輪になってまわれ〜と楽しそうにリズムをやっている姿を見て、ひまわり組の2歳児

北町保育園では

釜石の「虎舞」との出会い

社会福祉法人陽光会が練馬区立北町保育園の運営業務を受託してから2年目に入りました。保護者の方が安心して預けられる保育園であることと同時に、子どもたちの成長発達を保障したいと、職員は常に研修に励みながら、日々の保育を創っています。今回の「虎舞」との出会いもそんな取り組みのなかから生まれました。

3年前に陽光会が練馬区立北町保育園の運営業務を受託したとき、私は陽光会の職員になりました。

初めて陽光保育園の卒園式で荒馬踊りを見たときは、5歳児にこんなことができるのかと驚きました。昨年度、北町保育園に勤務するようになって、5歳児の力強いエイサーにも刺激を受けました。「なんで民舞を踊るのか？」「他の民舞も見たい」と思いつけ、今年4月、「民舞研修」という研修に参加し、アイヌの踊り、荒馬踊り、エイサー、釜石の「虎舞」と出会いました。自分の知らない、見たこともない民舞に触れ、「わあ、すごい！」と感激し、子どもも同じように思うのかな、このワクワク・ドキドキした気持ちを大切にしたいと思いました。

研修で「虎舞」を踊ってくださった方が、「保育園に行って踊りますから、声をかけてください」と言われ、ぜひ子どもたちと見てみたい、踊れたらもっといいなあと思ひ、園に戻ってからさっそく園長・職員に相談して、来ていただくことにしました。

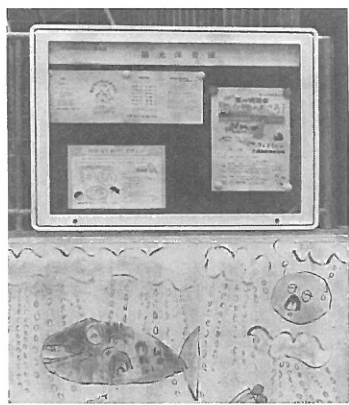
6月8日、虎舞の「平田青虎会」の3人が北町保育園に来てくださいました。保護者の方も4人来てくださり、そのうちお一人は陸前高田市出身で、虎舞を知っていて、歌も鐘もできるということで参加していただきました。子どもたちの興味・関心は大きく、虎舞を見て、



現在、4、5歳児で虎の頭を製作中です。次は目、耳、鼻と作るのを楽しみにしています。そして虎舞を踊る日を、いついつかと楽しみにしています。(北町保育園保育士 半杭真里子)

ようこうほいくえんの
一時保育

- ◆こたなとせ利用ください
 - 保護者の就労・求職・通院・職業訓練・通学・看護・介護など。また保護者の傷病・被災・事故・出産・冠婚葬祭などの緊急時。
 - 保護者の子育て不安・リフレッシュなど。
 - 育児相談、健康診断等で、お子さんが保育園での保育が必要と認められたとき。
- ◆利用日・利用時間など
 - 月曜日～金曜日9時～17時
 - (土・日・祝日・年末年始休)
 - 1歳以上で、離乳の完了しているお子さんから。ただし、板橋区発行「すくすくカード」ご利用の方は生後10か月から。
 - 一日1時間～8時間。ご希望の時間帯で利用できます。
- ◆お申し込み・お問合せ
 - 直接 陽光保育園へ
 - (3956)1068 受付時
 - 間10時～17時
- ◆緊急時以外は、なるべく利用される10日前までに申し込んでください。
- ◆事前に面接をしていただき、利用日・利用時間を予約していただきます(親子でおいでください)。
- ◆利用料その他、詳しくは陽光保育園までお問い合わせください。



陽光保育園
念願の掲示板が設置されました
園舎の改築以来、懸案だった掲示板をやつとこの6月に玄関脇に設置しました。薄くて頑丈な掲示板です。地域の保育園として、近隣の皆様へ情報を提供していきます。通りがかった際は、ぜひご覧ください。

一時保育◎保護者の声

○息子が1歳2カ月のとき初めて一時保育を利用しました。はじめは心配でしたが、保育士さんから1日楽しく遊んでいた様子を知り、とても安心しました。それからというもの、たくさんのお友だちや保育士さんからの刺激を受けて成長していく様子を毎回直接聞いたり、園の連絡票で見ることができ、私自身、迎えに行くのが楽しみにしていました。(1歳児母)

○一時保育でも担当者が固定していることで、子どもも保育士さんのことが好きになりました。歌をたくさん覚えたこと、トイレが上手になったり、陽光保育園でぐんぐん成長しました。あたたかく行き届いた保育に、心から感謝しています。(1歳児母)

○最初は大きすぎて大丈夫かなと思いましたが、いつも同じ保育士さんで、他のクラスの子とも一緒に遊べるため、家に帰ってくるころと成長した感じがあります。こういう場が近くにあるのはほんとにありがたいです。(1歳児母)

○家の事情で一時保育を利用させていたが、ようやく、とても助かっています。歳の近い子どもたちとのふれあいで、子どもが成長しているのを感じ、私も自分の時間をもち、子育てが楽しくなりました。(2歳児母)

○保育士さんたちはみな活気があり、子どももすべくなってきました。ほかのスタッフのみなさんもすべてに子どもの名前を覚えてくださり、感激しました。他のクラスの子ともたのしくふれあひもあり、子どもの成長していく姿が見られます。(2歳児父)

被災地の子どもにも保育の保障を！ 待機児童解消と保育充実を！ 新システム反対！ 5・22緊急集会 に参加して

5月22日(日)、保育士や子連れの父母らが「被災地の子どもたちに保育の保障を」「待機児童解消と保育充実を」のスローガンを掲げて、芝公園に集まりました。

北海道から九州まで約1600人の参加者があり、被災地(岩手・宮城・福島)の代表者が現地の様子を語り、「新システム」が導入されると子どもの命を守れなくなる」と訴えました。その後、参加者で芝公園から銀座、東京駅までパレードしました。

被災地の現状報告では、この大震災で保育所を振りどころに、保護者、住民が子育ての連帯の力を発揮したということ。危険から子どもの命を守ることでできる建物や職員配置基準の拡充が課題です。保育所の早期の再開、再建が不可欠です。

政府が2013年度の制度施行をめざしている「子ども・子育て新システム」は大きな問題があります。

震災から2カ月たった5月11日、子ども・子育て新システム検討会議の幼保一体化ワーキングチームの会合が再開、社会保障と税の一体改革に合わせて議論をまとめていく方向が示唆されました。その提案は次のようなものです。

①これまで「こども園」としていた幼保一体化施設を新たに「総合施設(仮称)」と呼称する。②この「総合施設」および、一体化施設にならない幼稚園や乳児保育所、指定基準をクリアした認可外施設など、さまざまな施設をすべて「こども園」とする。



全国各地から大勢の参加者があり、「新システム」反対や待機児童対策の充実、震災からの復興を訴えた

そして、これらの施設の利用者に対して「こども園給付」(仮称)を行うとしています。また、「総合施設」において3歳以上児は、「学校教育」と「保育」を同時に保障し、家庭の養育支援も行うとしています。3歳未満児の教育の位置づけは不明確です。保育とは、養護と教育の一体として整理されるべきであり、3歳未満児と3歳以上児を区分することは乳幼児期の保育の重要性をないがしろにするものです。私たち保育者や子育て中の親をはじめ保育関係者は、この無責任で強引な「新システム」の取りまとめに反対してきました。



社会福祉法人陽光会からも、父母、職員、理事が参加。「公的保育制度を守ろう」は長年の合言葉

震災のどさくさにまぎれ、「新システム」を強引に推し進めていくとする自治体もあれば、議会で反対意見を可決したという心強い報告もありました。大阪から参加していた子育て中のお母さんは、「待機児童対策の予算がないという行政の対応と、この先子どもが保育園に入る見込みのない現状に憤りを感じました」と話されていました。

我々大人が現状を把握し、行政に訴えていくことが大事だと痛感した集会でした。

(北町保育園保育士 四分一みどり)

〔注〕5月11日以降、子ども・子育て新システム検討会議の議論は活発化。7月6日には「子ども・子育て新システム」に関する中間とりまとめ(案)が出されています。それによると、①幼保一体化(実質的には三元化)、②企業参入(保育の市場化と公的保育制度の解体)、③こども園給付(仮称)の開始(直轄契約の導入)、④1兆円超の予算投入(財源は不明確。消費税増税?)といったことが明らかになっています。あいまいで不透明ながら、保育所が「一体化」を迫られているのは確かであり、私たちは今後も、国の動きにしっかり目を光らせていなければなりません。(編集部)

- ごあんない
- 陽光保育園**
 - 運動会 とき 10月9日(日) 9～14時
場所 板橋第十小学校校庭
 - 冬のバザー とき 12月4日(日) 10～14時
場所 陽光保育園
 - 北町保育園**
 - 運動会 とき 10月15日(土) 9:15～13:30
場所 北町保育園
 - 陽光会後援会**
 - * 陽光保育園後援会は、今年度から陽光会後援会として新たにスタートを切りました。今後ともよろしくお願いたします。
 - 夏の交流会 とき 7月31日(日)
場所 三浦海岸
 - * 詳しくは陽光保育園(☎3956-1068)までお問い合わせください。
 - 納涼会 とき 8月26日(金) 19～21時
場所 陽光保育園ホール
会費 無料
 - * 一品持ち寄りです。ビール、サワーなど飲み物(実費)やお子さま向けにかき氷(無料)を用意します。人形劇などの出し物も予定しています。夏の一夜、楽しく交流しましょう。
 - 秋の交流会 とき 10月23日(日)
場所 巾着田&日和田山
 - * 詳しくは、9月中旬にご案内します。

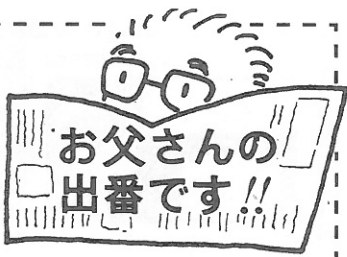
大災害、そのとき、 どう生き残るか

あなたが、家族が、国民が

とき 9月30日(金) 19～21時
場所 陽光保育園ホール
講師 清水 長

3・11以前の災害想定はまったく無意味になりました。いろいろ言われている災害対策も、生き残った後いかに快適な生活を送るかというものです。大切なのは、生き残ることです。そのための考え方を提起します。* 講師の清水さんは、陽光会後援会会員であり、長年にわたり板橋災害ボランティアとしての活動を続けています。東日本大震災の被災地にも何度も足を運んでいます。大災害が起きたとき、いかにして生き残るか、実体験にもとづいたお話を聞けそうです。

積み重ねてきた朝の時間



朝の時間はいつも慌ただしく、なんとか陽子を送り届け、自分も職場に滑り込む日々です。仕事上の締め切りや重要な仕事が迫っていると、自分にも余裕がなくなってしまう。そんな中で、陽子を急がして出発しようとするとき、きまってる、「今日は誰と行くの?」「パパだよ。遅れそうだし、協力してよ」「えー、ママがいい……」。思わず、大人げなく不機嫌になったことも多々あったような……。

時々ママが当直で家に帰ってこないことがあります。そのときは男2人で、外食したり、オセロをしたり、夜更かししたり。そんな翌朝は、朝の会話ははずんだりします。自分の状態を映すような、朝の時間を積み重ねてきました。

陽光保育園の日々は、残すところ9カ月。振り返ると、ロッカーの形も徐々にかわり、陽子は自分でパジャマを置きにいへようになり、衣服のロッカーへのセットも自分でできるようになり、今では元気に雑巾がけをしています。

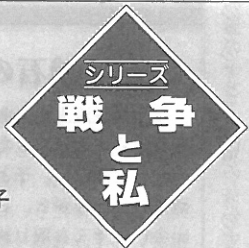
距離の関係で、車で送ってきましたが、朝のテーマ曲も、ウアンハイレン、ピリージョエル、ミヒャエル・グッティ、佐野元春など、時とともに変遷がありました(昭和の曲がわりと好き)。朝の送りは、陽子の成長を見届けることができた貴重な時間でした。今年から転居に伴いママの送りがほとんどですが、残りの楽しい朝の時間を、十分に満喫していきたいと改めて思っています。

もともと陽光保育園を知ったきっかけは、道で元気に遊ぶ子どもたちが少し冒険的なことをしたときに、危ないからやめさせるのではなく、暖かく見守る先生とのびのび遊ぶ子どもたちの姿を、偶然ママが見て感銘をうけたことでした。陽子を入れてもらって、ほんとうにのびのびと育てていただき、遅い時間まで遊びにつきあっていただいていたことが、心から感謝しています。

(5歳児クラス・陽子の父 長瀬洋之)

燃えるあの夜の空

鶴見 篤子



昭和20年7月20日の夜、祖母に背負われながら、私は真っ赤に燃える空を見上げていた。夕焼けではない。祖母は南の空を仰ぎながら、口の中でぶつぶつと何やら唱えていた。「お母さんたち、どうしているかね……」。3歳の私にはよくわからないながらも、お母さんたちが大変なんだと、不安で一杯だったのを記憶している。あの空の色は私の脳裏に焼きついて離れない。

私は太平洋戦争開戦の年、昭和16年に品川で生まれた。2年後の18年には、近くの軍需工場が爆撃されたのを機に、父は家族を母の実家である岐阜に疎開させてしまった。決して口には出さなかったが、父はその時点ですでに敗戦を意識していたのかもしれない。しかし、まさか岐阜の疎開先まで空襲にあうとは思わなかったのだろう。岐阜に落ち着いた家族は不自由ながら、祖母の援助で食物にもそれほど苦労しない毎日だった。

ところが敗戦3週間あまり前のその夜、岐阜市街は焼け野原となった。家に居た母、小学4年、1年の兄と2歳の弟は、猛火の中を黒こげの死体を飛び越えて逃げ惑ったそうだ。私は祖母の家に預けられていた。そこで真っ赤に燃える南の空を、見守っていたのだ(今でも話題になるが、あのとき私が家族と一緒にいたら、一家全滅だったろう)。

翌朝、煤で真っ黒の顔、焼け焦げた防空頭巾の兄たちが祖母の家にたどり着いたとき、1年生の兄と私は抱き合っ泣いたそうだ。一夜の緊張が破れたのに違いない(こんな印象深い出来事なのに、私は残念ながら覚えていない)。

一家そろって命からがら助かったと思ったのも束の間、2歳になったばかりの弟は、4日後に亡くなった。2歳の子どものには、一晩中の空襲は耐えられなかったのだろう。あっという間の出来事だった。

私の戦争にまつわる直接の記憶はこれくらいしかないが、五感に残る記憶は強い。空襲警報のあの低い音程から始まるサイレンは、戦後ずっと恐ろしくて、聞く度に私はドキッと体が震えた。理屈ではない、感覚が戦争を拒否しているのだと思う。だから、私は戦争に向かうあらゆる動きに抵抗する。

(元小学校教諭/板橋区在住)